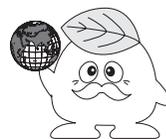

まえがき



私たちのくらしは、科学技術の発展と共に豊かさや快適さが増大してきています。その一方で、地球温暖化をはじめとして、解決すべき環境問題が山積するようになりました。2015年の国連サミットで2030年までに達成すべき目標として採択された「SDGs (Sustainable Development Goals)」の中にも、気候変動や海・森の保全など、地球規模の環境問題解決に関する目標が盛り込まれています。

本書は、主に大学・短大の文系の学生、あるいは理系の初年次の学生が読者となることを想定し、そうしたさまざまな環境問題について、身近なくらしの中から考えてみることを目指しています。環境問題に興味を持ち考えていくためには、日々のくらしの中から具体的な例を見つけ、自分にも関わりのあることだという実感を持つことがとても大切だと考えるからです。

また、環境問題に関する書籍というと、これまで理系では化学や工学が専門の先生方の著書が多かったのではないのでしょうか。私自身はもともと生物学の出身ですので、本書では主に生態学や生命科学の視点で環境問題を眺めてみることにしました。同じ理系の書籍でも、分野的には文系の学生や一般の方に手に取っていただきやすいのではと考えています。

さらに、科学的な内容も、なるべくわかりやすい言葉、わかりやすい図表で説明するように心がけました。ちなみに、イラストを含んだ図については、高校時代漫画研究会に籍を置いていた過去を思い出し、自身で原図を描きました。また、生態学 (ecology) から、エコロジー→エコロじい (爺) と勝手に連想し、各章の最初に、その章のイメージを表すキャラクターも作成しました。

本書が、読者のみなさんにとって、環境問題に興味を持ち考えてみるきっかけとなり、本書の内容を、(題名通り) みなさんのくらしに少しでも活かしていただければ幸いです。

最後に、本書を執筆するにあたり、参考にさせていただいた書籍の著者と出版社、インターネットサイトの運営管理者、私のつたない原図をもとに図版を作成して下さった図版作成者のみなさんに、この場を借りてお礼を申し上げます。また、本書の構想から出版に至るまで辛抱強くお付き合ひ下さり、ご尽力下さった、三共出版の秀島功氏に心から感謝を申し上げます。

2021年春 細谷 夏実